



三里塚教会 内観 (撮影: 古川泰造 / 2013年)

生活空間の詩^{うた} / 建築家・吉村順三 展

— 三里塚教会と木造住宅を通して

Poetry of Living Space

Sanrizuka Church and Wooden Houses by Junzo Yoshimura the Architect

2014年3月17日[月]—5月17日[土]

京都工芸繊維大学 美術工芸資料館

Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

開館時間: 10時—17時 (入館は16時30分まで)

休館日: 日曜日・祝日 (*ただし、4月29日[火・祝]と5月3日[土・祝]から6日[火・祝]までの間は開館致します。)

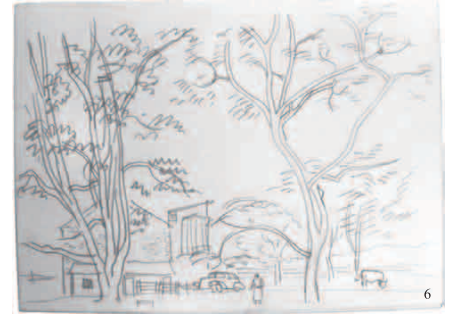
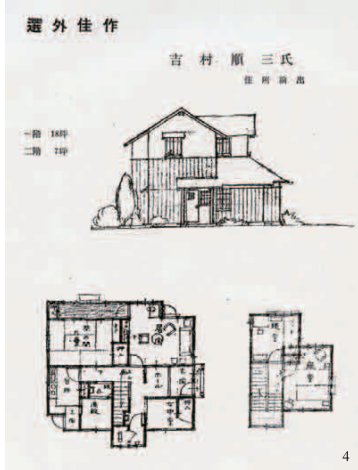
入館料: 一般200円、大学生150円、高校生以下無料

主催: 京都工芸繊維大学 美術工芸資料館

協力: 公益財団法人 ギャラリーエークウッド



京都工芸繊維大学
美術工芸資料館
MUSEUM AND ARCHIVES



1. 森の中の家(撮影: 古川泰造 / 2013年) 2. 園田邸 (撮影: 齋藤さだむ / 2009—11年)
 3. アントニン・レーモンド事務所にて(前列右から1番目が吉村順三、後列右から4番目がアントニン・レーモンド / 1934年頃)
 4. 吉村順三が『住宅』(1925年1月号)にて小住宅設計懸賞にて選外佳作に選ばれた作品
 5. ニューホープ時代に吉村順三が撮影した写真(1940年頃) 6. 《ニューホープ、左端が我が家》(1940年)

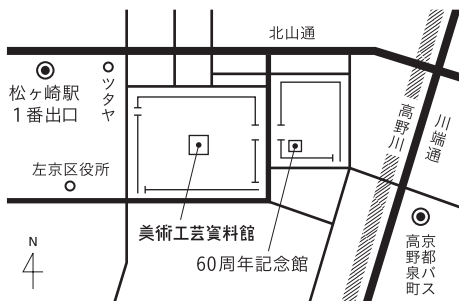
生活空間の詩 / 建築家・吉村順三展 —三里塚教会と木造住宅を通して—

吉村順三(1908～1997年)は、日本の木造文化のエッセンスを現代に活かしながら、木造住宅を中心とする設計活動を通して、居心地の良い、簡素で温かな生活空間をつくり続けた建築家です。本展覧会では、1954年に竣工し、吉村にとって唯一の教会建築である「三里塚教会」といくつかの木造住宅を通して、その建築世界の魅力に迫ろうとするものです。

東京本所の呉服商の家に生まれた吉村は、江戸情緒が色濃く残る下町に育ちます。しかし、1923年の関東大震災で自宅は焼失し、東京の街も激変してしまいます。そんな中、震災によって失われた街並みへの思いと、F.L. ライトの帝国ホテル(1923年)に感動した経験が、吉村の建築家を志すきっかけになります。そして、同じころ雑誌を通して住宅作家の山本拙郎(1890～1944年)と出会い、そのロマンチックな作風にも強い影響を受けました。また、日本各地の民家をスケッチしたり、遠く朝鮮や中国を旅行して、日常風景を形づくる何気ない建築にも魅せられていきます。

こうして、東京美術学校に入学した吉村は、もう一人の師となるアントニン・レーモンド(1888～1976年)と出会い、学生の身分で事務所へ通い、卒業後は、スタッフとして学び始めるのです。レーモンドからは、日本の伝統的な木造建築に学ぶことの大切さを教えられます。1938年に日米関係の悪化からレーモンドはアメリカに帰国しますが、吉村は、彼の要請を受けて、1940年単身アメリカに渡り、フィラデルフィア郊外のニューホープのアトリエで働きます。そして、1941年最後の帰国船で日本へと戻った吉村は、12月8日に事務所を設立、戦時下に設計活動をスタートさせます。その後、母校に講師として迎えられ、戦後は、木造住宅を中心に精力的な建築家としての活動を続けます。こうした中で竣工したのが「三里塚教会」でした。そこには、吉村が長い時間をかけて見つめてきたものが注ぎ込まれています。

今回の展覧会は、東京展(ギャラリーエークウッド)の成果を受けて、さらに、吉村が描いたスケッチや撮影したアメリカ時代の写真、実測図や書簡などの資料、模型などを追加し、吉村順三がつくり上げようとした生活空間の姿を紹介します。



▽ アクセス | Access

< 地下鉄 >

京都市営地下鉄烏丸線 松ヶ崎駅1番出口から
 右(東)へ約400m、4つ目の信号を右(南)へ約180m

< バス >

京都バス高野泉町下車、馬橋を渡り左へ約200m

< By Subway from Kyoto Station >

Take the "Kokusai Kaikan" bound Karasuma Line Subway to "Matsugasaki" Station, and walk east for 8 min.

◎ 関連企画 | Event

記念シンポジウム

「吉村順三の求めたもの」

2014年5月10日[土] 14時—17時(開場13時30分)

会場: 京都工芸繊維大学60周年記念館

定員: 150名(当日先着順・参加費無料・申込不要)

< パネリスト >

佐藤 年 (俵屋旅館 当主)

横内敏人 (建築家・京都造形芸術大学大学院教授)

堀部安嗣 (建築家・京都造形芸術大学大学院教授)

< 司会 >

松隈 洋 (京都工芸繊維大学美術工芸資料館教授)

◎ 巡回展

大阪市立住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館

2014年5月31日[土]—7月6日[日]

◎ 常設展示

「1910—30年代 日本のポスターと消費文化」

Poetry of Living Space

Sanrizuka Church and Wooden Houses by Junzo Yoshimura the Architect

Date : Mon. 17 March - Sat. 17 May 2014

Hours : 10:00 - 17:00 (admission until 16:30)

Closed : every Sunday, national holiday

(except for Tue. 29 Apr. and Sun. 3 May till Tue. 6 May)

Admission : Adults 200yen / Students (college, university) 150yen /

Free for High School students and Below

Organizers : Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

Cooperation : Public Interest Incorporated Foundation Gallery A4

□ 会場・お問合せ | Contact

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

Hashigami-cho Matsugasaki Sakyo-ku Kyoto 606-8585

Tel: 075-724-7924 Fax: 075-724-7920

E-mail: siryokan@kit.ac.jp

<http://www.museum.kit.ac.jp/>